

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 フィリピンナガイサ

1 事業の趣旨・目的

- ① 日本語能力を有するフィリピン人が、同国出身者に対して日本語の指導や日本文化・習慣・マナーを教える。市販テキストだけでは補えない、意思疎通を図るための生きた日本語を、体験を通して体得していくことを目的とする。
- ② バイリンガル講師は、母国の生活習慣や同国出身者の考え、文化を伝える指導者にもなりうる。この特性を活かし、日本人住民へ参加を呼びかけ、日本人・外国人が相互理解を深める教室とする。
- ③ 平成 19・20 年度『文化庁委嘱 バイリンガル教師養成講座(主催:浜松国際交流協会)』を修了した日本語能力を有するフィリピン人(日本語能力試験 2 級程度)は、平成 19・20 年度『文化庁委嘱 フィリピン人のための日本語教室(主催:浜松国際交流協会)』で教授経験を積んで、成果をあげてきた。今回は自らのコミュニティ『フィリピンナガイサ』として日本語教室を運営し、コミュニティの確立を目指す。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成 22 年 5 月 26 日	第一伊藤 ビル 会議室	清、野々山 山屋、津村 川合、吉田 水口	<ul style="list-style-type: none">・ 委員長、副委員長の選任・ フィリピンナガイサ活動報告・ 今年度予定を元に内容検討	<ul style="list-style-type: none">・ 生活情報として覚えてほしいことと、身につけてほしい日本語を分けて授業を構成すること。
平成 22 年 11 月 2 日	第一伊藤 ビル 会議室	野々山、山屋 津村、川合 吉田、水口	<ul style="list-style-type: none">・ 事業中間報告・ 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 参加人数は多いが、学習者の生活事情から、出席率が安定しない。連絡が途絶えていないのなら、寛容に考えていいのではないか。・ 運営側は会話主体のクラスを目指している一方、学習者は読み書きへのニーズが高い。このクラスを訪ねてくる学習者には

				滞在年数の長短があり、年数が短いほど会話が急務で、年数が長いほど読み書きへのニーズが高くなる。クラスのターゲットを定めていく。
平成 23 年 3 月 2 日	第一伊藤 ビル 会議室	野々山、山屋 津村、川合 吉田	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業報告 ・ 成果 ・ 来年の予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本人ボランティアの導入ばかりではなく、他団体との交流も視野に入れる。 ・ 新たに集住地区(浜北)で教室開催を予定。自治会や工場との連携を開拓していく。そのために市や国際交流教会に協力を仰ぐ。 ・ 開催後だけでなく、開催前のアンケート(ニーズ調査)も必要。

【写真】



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称
「フィリピン人のための日本語教室～人とつながり、地域をつなげていこう～」
- ② 開催場所
浜松市立南部公民館／浜松市多文化共生センター／浜松市立中央公民館
- ③ 学習目標
バイリンガル講師が授業を進行し、日本人ボランティアの参加・協力を得て、浜松地域に即した内容の教室にする。
- ④ 使用した教材・リソース
 - ・ 講師オリジナルプリント

- ・ ゲストオリジナルプリント(杏林堂薬局、長尾小児科医院)
- ・ レアリア(公共料金申込書、杏林堂ポイントカード申し込み書、履歴書)
- ・ パンフレット(イズモデン、浜松中央警察署、浜松市保健所、ハローワーク)
- ・ 教材(葬儀関連品、110 番電話デモ機、診察券、保険証、お医者さんセット、処方箋、市販薬、杏林堂ポイントカード、不在票、郵便物、ギフト包装品など)

⑤ 受講者の募集方法

- ・ 「HICE NEWS」英語版、日本語版に掲載
- ・ 浜松市多文化共生センター、浜松学院大学、フィリピンレストランにチラシを掲示
- ・ 各種イベントにて、チラシ配布

※チラシは別紙参照

⑥ 受講者の総数 138 人

(出身・国籍別内訳 フィリピン国 102 人、日本国 36 人)

⑦ 開催時間数(回数) 66時間 (全33回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍 母語(人)	教授者 補助者人数	内容
1	6月12日 10:00~12:00	2	13	フィリピン国・タガログ語(9人) 日本国・日本語(4人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	オリエンテーション、自己紹介、挨拶 ／教材等:講師自作プリント
2	6月19日 10:00~12:00	2	11	フィリピン国・タガログ語(7人) 日本国・日本語(4人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	色々な申込書の書き方／教材等:講師自作プリント、公共料金申し込み書
3	6月26日 10:00~12:00	2	13	フィリピン国・タガログ語(11人) 日本国・日本語(2人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	色々な申込書の書き方／教材等:講師自作プリント
4	7月10日 10:00~12:00	2	15	フィリピン国・タガログ語(8人) 日本国・日本語(7人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	冠婚葬祭のマナーについて／教材等:講師自作プリント
5	7月17日 10:00~12:00	2	40	フィリピン国・タガログ語(24人) 日本国・日本語(16人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	日本の葬祭について ／ゲスト:イズモデン株式会社
6	7月24日 11:00~13:00	2	33	フィリピン国・タガログ語(19人) 日本国・日本語	教授者2人 補助者1人 コーディネーター	交流会を通して、日本人と交流する

				(14人)	ター1人	
7	8月2日 10:00~12:00	2	21	フィリピン国・タガログ語 (17人) 日本国・日本語 (4人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	交通ルールと防犯について/ゲスト: 浜松中央警察署
8	9月4日 13:30~15:30	2	12	フィリピン国・タガログ語 (8人) 日本国・日本語 (4人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	夏休みについて、動詞を使って話す/教材等: 講師自作プリント
9	9月11日 13:30~15:30	2	9	フィリピン国・タガログ語 (8人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	体の部位を覚える、症状を日本語で言えるようにする/教材等: 講師自作プリント
10	9月18日 13:30~15:30	2	16	フィリピン国・タガログ語 (12人) 日本国・日本語 (4人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	病院の診察の予約をする/講師自作プリント
11	9月25日 13:30~15:30	2	10	フィリピン国・タガログ語 (6人) 日本国・日本語 (4人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	診察室での会話①/教材等: 講師自作プリント
12	10月9日 13:30~15:30	2	26	フィリピン国・タガログ語 (20人) 日本国・日本語 (6人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	診察室での会話②/ゲスト: 長尾小児科医院
13	10月16日 13:30~15:30	2	8	フィリピン国・タガログ語 (5人) 日本国・日本語 (3人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	保健所の仕組みを知る/ゲスト: 浜松市保健所
14	10月23日 13:30~15:30	2	6	フィリピン国・タガログ語 (5人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	処方箋の見方/教材等: 講師自作プリント
15	10月30日 13:30~15:30	2	5	フィリピン国・タガログ語 (3人) 日本国・日本語 (2人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	薬局やドラッグストアでわからないことを、薬剤師に尋ねる①/教材等: 講師自作プリント
16	11月6日	2	9	フィリピン国・タガ	教授者2人	薬局やドラッグスト

	13:30~15:30			ログ語 (4人) 日本国・日本語 (5人)	補助者1人 コーディネーター1人	アでわからないことを、薬剤師に尋ねる② ／教材等：講師自作プリント
17	11月12日 13:30~15:30	2	10	フィリピン国・タガログ語 (9人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	薬局やドラッグストアでわからないことを、薬剤師に尋ねる③ ／ゲスト：杏林堂
18	11月20日 13:30~15:30	2	7	フィリピン国・タガログ語 (5人) 日本国・日本語 (2人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	薬局やドラッグストアでわからないことを、薬剤師に尋ねる④ 復習／教材等：講師自作プリント
19	11月27日 13:30~15:30	2	7	フィリピン国・タガログ語 (5人) 日本国・日本語 (2人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	不在票をもとに電話をかける練習／教材等：講師自作プリント
20	12月4日 13:30~15:30	2	6	フィリピン国・タガログ語 (5人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	復習／教材等：講師自作プリント
21	12月11日 13:30~15:30	2	7	フィリピン国・タガログ語 (6人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	正月の過ごし方を皆で話す／年賀状を書く練習／郵便の種類
22	12月18日 13:30~15:30	2	50	フィリピン国・タガログ語 (37人) 日本国・日本語 (15人)	教授者3人 補助者1人 コーディネーター1人	フィリピンスタイルのクリスマスとして料理教室を行い、日本人と交流を図る
23	1月8日 13:30~15:30	2	6	フィリピン国・タガログ語 (4人) 日本国・日本語 (2人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	どんな正月を過ごしたか話し合う、去年の復習／教材等：講師自作プリント
24	1月15日 13:30~15:30	2	7	フィリピン国・タガログ語 (4人) 日本国・日本語 (3人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	レストランでの会話／教材等：講師自作プリント
25	1月22日 13:30~15:30	2	4	フィリピン国・タガログ語 (2人)	教授者2人 補助者1人	買い物での会話、ラッピング包装／教材

				日本国・日本語 (2人)	コーディネーター1人	等：講師自作プリント
26	1月29日 13:30~15:30	2	3	フィリピン国・タガログ語 (3人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	面接で使う日本語やマナー／教材等：講師自作プリント
27	2月5日 13:30~15:30	2	7	フィリピン国・タガログ語 (5人) 日本国・日本語 (2人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	面接の模擬練習／教材等：講師自作プリント
28	2月12日 13:30~15:30	2	4	フィリピン国・タガログ語 (3人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	面接の復習／バレンタインデーの文化比較 (日本とフィリピン)
29	2月19日 13:30~15:30	2	6	フィリピン国・タガログ語 (5人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	履歴書を書く①／教材等：履歴書
30	2月26日 13:30~15:30	2	7	フィリピン国・タガログ語 (6人) 日本国・日本語 (1人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	履歴書を書く②／教材等：履歴書
31	3月5日 13:30~15:30	2	4	フィリピン国・タガログ語 (4人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	病院で使われる漢字 (～科)／教材等：講師自作プリント
32	3月12日 13:30~15:30	2	3	フィリピン国・タガログ語 (3人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	新聞作成
33	3月19日 13:30~15:30	2	37	フィリピン国・タガログ語 (26人) 日本国・日本語 (11人)	教授者2人 補助者1人 コーディネーター1人	新聞発表、修了式、交流会

⑨ 特徴的な授業風景

【第5回】 ゲスト:株式会社 出雲殿

株式会社 出雲殿の方をゲストにお招きし、「葬祭」に関する内容を学んだ。このテーマを授業に取り上げるきっかけは、「滞在年数が長くなってきたフィリピン人女性が、増えてきた。それに伴い、ご主人の両親も年配となり、ご不幸がある家庭が多い。けれども日本の葬祭の文化やしきたりがわからず、何をしたら良いかわからないという相談が多い」というフィリピン人スタッフの声からだ。また、生活者としてご近所とのお付き合いも深くなり、近所の方が亡くなった時にお通夜などに招かれるものの、「ご焼香」や「お線香をあげる」「お香典をお渡しする」など、わからないことがたくさんあるという不安の声もあった。こうした生活相談から、この授業を計画した。

まずは「自分のごく近い身内が亡くなった」設定として、亡くなってから葬儀に至るまでの一連の流れをガイダンスしていただいた。

『「友引」には「友を引く」という理由から、お葬式(悪い行事)は行わない。結婚式などのお祝い(いい行事)は行うのに適している』というお話は、日本の暦を知らないフィリピン人にとって新鮮だった。

浜松では「仏教」ばかりでなく「神道」のお宅も多い。その中で、榊の持ち方と手向けかたも教えていただいた。また、「ご焼香」の実物も見せていただきながら、実際にご焼香を試みた。

火葬について。火葬は勝手に行うことができず、病院から「死亡診断書」を受け取り、市役所へ「死亡届け」を提出し、火葬の許可証交付を受ける。

香典袋については、種類がいくつかある中で「御霊前」と書かれているものは宗派問わず使えて便利だということも教えていただいた。

授業の最後では、遺族と弔問客に分かれて「おくやみの言葉」について学んだ。「このたびは、ごしゅうしょうさまです」「いろいろおせわになりました」実際に畳・座布団を教室へ持ち込み、その上に座って喪主リボンをつけた遺族役に言葉をかけた後、亡くなった方を想定して手を合わせるという練習を行った。

日本人ボランティアさんたちは、様々な喪服、喪服に代わる黒い洋服を着て、授業に参加してくださいだったので、皆でどの洋服が喪にふさわしいか話し合った。



このたびは、ご愁傷様です



黒い服でもいろいろあります。



ご焼香、食べないでね

【第12回】 ゲスト:長尾小児科医院

長尾小児科医院より、長尾正明医師をゲストにお迎えし、臨場感ある診察室でのやりとりを学んだ。

この日のロールプレイに出てきた表現は以下の通り。

●どの患者(学習者)に対しても医師が言う言葉

「おはいりください」「おかけください」「どうしましたか」「いつからですか」

(聴診器を当てるとき)「むねをみせてください」「大きく吸って、はいて」

(のどを見るとき)「くちを おおきくあけて」「舌をベーンと出して」

●「おなかがいたい」と言う患者(学習者)に対して医師が言う言葉

「食欲は ありますか」「おさしみとか 食べてない?」「うんちは やわらかいですか」「ベッドに横になってください」「消化にいいものを 食べてください」

●「風邪気味だ」という患者(学習者)に対して医師が言う言葉

「熱はどうですか」「のどはどうですか」「たんが からみますか」「鼻水に色はついていますか」「夜はねむれますか。せきで起きちゃう?」

●頭が痛いという患者(学習者)に対して医師が言う言葉

「ズキズキしますか、ガンガンしますか」→ニュアンスがわからない学習者たち。日本語のズキズキとガンガンの違いを改めて、日本人のボランティアさんも交えながらフィリピンの皆と一っしょに考えてみた。

●胸が苦しいという患者(学習者)に対して医師が言う言葉

「もしかして、恋の病?それは、時が解決してくれます」という長尾医師の回答に、一同大笑い。フィリピンも日本も、恋の病は先生にも治せないようだ。

医療用語には「英語」が多いので、先生は病名を英語で紹介してくださる場面もあった。英語が通じるドクターが多いので、日本語で自分の症状が伝えられないときにはまず先に「“英語で話してもいいですか”という一言だけでも日本語で聞けることが大事」という話が、バイリンガル講師から補足された。



大きく吸って、はいて

「恋の病は、先生も治せません」に、一同爆笑



【第13回】 ゲスト:浜松市健康医療部 健康増進課

このクラスは浜松市国際課の職員の方から「保健所では、フィリピン人の母子に関する相談が多い」と伺って実現した。保健所は何をしてくれるところか知らない外国人は多い。「母子に関すること」「予防接種」のほかに、健康や生活、迷い犬、虐待の相談、夜間救急・・・保健所では様々なサービスを行っている。中でも質問が集中したのは、妊婦検診のこと。このクラスには結婚しているけど、まだ子供がいない女性が多く、みな興味津々。保健所では妊娠がわかると、母子手帳を発行するとともに、妊婦検診で使える受診券(14回分)をくれる。けれども外国人の場合、VISAがないという人が稀にいる。その際、母子手帳は母と子の健康を記録するためのものなので発行しているけれども、受診券については金券になるのでVISAの更新をしていない人や、VISAがない人には発行しないとのことだった。妊娠したけどすでに離婚していて、VISAの期限も切れているケースも多いそうだ。「“妊娠した”“離婚した”という事情を入管に説明して、逃げ隠れせずにきちんと日本のルールを守ること。これは母子の命や子供の成長のために、お母さんが最低限やらなければならないことだ」と、保健所から強いメッセージをいただいた。フィリピンの参加者からも「事情を話せば入管も強制送還しないと思う。VISAも取れると思う。」という意見があがった。保健所の方から実例として「すぐに困ったことがあると引っ越して、逃げる人もいる。でも、赤ちゃんはお腹の中でどんどん成長して生まれてくる。一人で悩まないで、私たちに相談してほしい」と話してくださった。ちなみに、妊婦になるとひとり42万円まで、治療費が助成されるそうだ。説明後、参加者のほとんどが「42万円もらえる」と勘違いしていて、授業が白熱した。これは42万円、現金でもらえるのではなく42万円までは治療を無料で受けられるという意味。加入している健康保険組合から病院へ直接支払われるものだ。健康保険(社保か国保)に加入していないと、その42万円の助成は受けられない。そのためにも、保険に加入しておくことも大切だと教えていただいた。

保健所ではさまざまなサービスが受けられる。聞きたいことはあるけど、日本語で上手に話せそうもないときは保健所に電話をかけて「通訳さんおねがいします」と言ってくれば、通訳を介して必要な課へまわしてくれる。「通訳さんおねがいします」という日本語も覚えておくといいというアドバイスをいただいた。

「おしゃべりタイム」では、女性の参加者が多く、DV(ドメスティックバイオレンス)の話になった。保健所の職員の方が女性だったので、気兼ねすることなくお話を伺うことができた。もしDVを受けたら「証拠写真を撮っておくこと」。なぜかという、傷は日にちが経つと消えてしまい、後から「暴力を受けました」と訴えても、証拠がないと信憑性が薄いと判断されてしまうから。日時が記録される携帯カメラで撮るのがお勧めだという話もあった。

この日の参加者はみな日本でとても幸せな生活を送っている。けれどもこの日の保健所のお話は同じ国にルーツをもつ仲間が「ひとりで悩まない」「日本の社会に溶け込むためにルールを守る」ためにも、必ず伝えてほしい。



【第17回】 ゲスト:株式会社 杏林堂薬局

あるフィリピン人から「私たちは日本語を上手に話せない。旦那さん(日本人)が病院へ一緒に行ける日を待って、受診する。だから、症状が出てから病院に行ける日まで時間がかかる。お金もなるべく節約したいので、病院ではなく薬局で買える薬に頼ることも多い」という話があった。そこで地元のドラッグストア杏林堂薬局の協力を仰ぎ、「薬剤師に薬を選んでもらう」というテーマで授業を行った。

この日は平日ということもあり、主婦の参加が多かった。杏林堂で薬を選んでもらいたいときは、緑か白の制服の人(薬剤師)に声をかける。症状の出ている場所を手で押さえながら「すみません、お薬を選んでください」とお願いするのがコツのようだ。

薬局に訪れる人のさまざまな症例を具体的に挙げていただき、それに伴う日本語を参加者は声に出して練習した。

杏林堂薬局は地域密着型店舗であること、また薬以外の雑貨や食品も置いてあるということで、主婦には本当にありがたいお店である。フィリピン人のほとんどは、「にこにこマーク」のポイントカードを持っている。「私も持ってる」「私も確かあるはず・・・」と財布からポイントカードを出す人が続出でクラスは大賑わい。そこからが主婦の威力発揮で、クラスは次のとおり騒然とした。

杏林堂薬局の説明によると、「ポイントカードは持っているだけでは、ポイントは加算されるけど、ポイントを使用してお買い物はできない」とのこと。カード発行後、指定用紙の記入をしてお店に提出して、番号を取得するシステムになっている。それを聞いた学習者たちは「えーっ！そんな紙あったっけ？もう捨てちゃった」「私のポイントはどうなるんですか」「今まですごい買っていたと思う」「もう、その紙を今から書いても間に合いませんか・・・」など、質問が相次いだ。フィリピン人のポイントカードの保有率の高さに杏林堂薬局のスタッフの皆さんも驚いていらっしやった。

外国人にとってポイントカードを発行されたとき、「後で書いて出してください」と用紙を添えられても、面倒だったり、日本語がわからないので捨ててしまっていることがわかった。

「おしゃべりタイム」では、次のようなことが話し合われた。

●今、仕事を探しています。杏林堂さんでは、外国人のスタッフを募集していませんか。

→薬に関する高度な知識と、接客用語を要するため、現状は行っていない。

「でも、いつか景気が上向きになったらわからないから、皆、それまでちゃんと日本語の勉強を続けようね」と学習者間で励ましあっていた。

●ポイントカードの説明の紙など、翻訳をつけていただけると嬉しいです。

●病院で出された処方箋は必ず杏林堂に出しています。杏林堂は調剤を待っている間、他の雑貨も見られるから楽しい。

●友達と待ち合わせするとき、杏林堂を使うことがある。にこにこマークの看板がわかりやすいから。

●「杏林堂」の漢字が読めない。でも、ロゴはわかる。

●「杏林堂」って、人の名前？

→人名ではない。中国の昔の話に、「医者がお金持ちの患者からはお金をいただき、貧しい患者からは杏(アブリコット)の種を受け取っていた」というのがある。その種を撒いたことで、杏の花でいっぱいになったというお話から来ているようだ。

この日は予想をはるかに超えて、にぎやかなクラスとなった。皆、日本語で聞きたいことが聞けていい時間となった。



痛い場所を手で押さえて



ポイントカードの申し込み用紙をその場で書きました。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
中村 グレイス	タガログ語 (フィリピン国)	13年	9回	バイリンガル講師
八重田 アナベル	タガログ語 (フィリピン国)	8年	27回	バイリンガル講師
牧野 リナ	タガログ語 (フィリピン国)	5年	23回	バイリンガル講師
小林 ロウエナ	タガログ語 (フィリピン国)	18年	18回	補助員
山本 ヘレン	タガログ語 (フィリピン国)	3年	11回	補助員
永井 ジュディス	タガログ語 (フィリピン国)	20年	2回	補助員
水口 パズ	タガログ語 (フィリピン国)	17年	6回	バイリンガル講師

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
半場 和美	フィリピンナガイサ 運営補助	日本語教師420時間 相当修了	33回	コーディネーター

藤井 和子	浜松学院大学	外国人支援リーダー 養成プログラム課程	11回	ボランティア
大場 哲次	フィリピンナガイサ	—	9回	ボランティア
蓮野 亜矢	中日新聞社	—	1回	ボランティア
山田 国明	浜松学院大学	日本語教師	3回	ボランティア
松井 三子	外国人子どもサポ ーターズクラブ	—	7回	ボランティア
山下 陽子	フィリピンナガイサ	—	9回	ボランティア
三輪 敏彦	フィリピンナガイサ	—	6回	ボランティア
二橋 和子	外国人子どもサポ ーターズクラブ	—	2回	ボランティア
小林 芽里	浜松学院大学	—	1回	ボランティア
横田 佳代子	浜松学院大学	外国人支援リーダー 養成プログラム課程	1回	ボランティア
八木 みどり	掛川国際交流セン ター／八木ゼミ主 宰	日本語講師	3回	ボランティア
小池 京子	外国人子どもサポ ーターズクラブ	—	3回	ボランティア
野末 美佳	フィリピンナガイサ	—	6回	ボランティア
岩崎 航	フィリピンナガイサ	—	5回	ボランティア
寺田 圭佑	フィリピンナガイサ	—	7回	ボランティア
津村 公博	浜松学院大学	教授	2回	ボランティア
松岡 真理恵	浜松市多文化共生 センター	—	1回	ボランティア
夏目 はるな	浜松学院大学	外国人支援リーダー 養成プログラム課程	1回	ボランティア
大谷 真矢	浜松市多文化共生 センター	—	3回	ボランティア
横田 佳代子	浜松学院大学	外国人支援リーダー 養成プログラム課程	1回	ボランティア
梶原 好蔵	フィリピンナガイサ	—	1回	ボランティア
山屋 宏	静岡県立浜松城北 工業高校	講師	5回	ボランティア
原 めぐみ	大阪大学	—	1回	ボランティア
澤根 麻貴	フィリピンナガイサ	—	7回	ボランティア
村田 辰明	フィリピンナガイサ	—	1回	ボランティア
清瀬 史	静岡大学	—	1回	ボランティア
吉田 敬一	浜松大学	教授	1回	ボランティア

渡辺 伸江	浜松外国人子ども 教育支援協会	日本語教師	2回	ボランティア
西本 良	静岡大学	—	1回	ボランティア
吉田 佐織	浜松市国際課	—	2回	ボランティア
嶋津 裕亮	浜松市広聴広報課	—	1回	ボランティア
宮原 啓二	メディアトーク	—	1回	ボランティア
澤田 敏伸	メディアトーク	—	1回	ボランティア

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

- ・ 日本人ボランティアに協力を得るという点について→多くの方々にご協力をいただいた。
- ・ 生活に必要な情報も織り交ぜながら、地域の関係機関に協力を仰ぎ日本語教室を行うという点について→授業を進める中で、それぞれの分野における「日本語でできるようになるとよい」というものがわかり、重点的に学ぶ項目も明確になった。引き続き今後のクラス活動に活かしていきたい。

② 学習者の習得状況

- ・ 運営側は会話主体のクラスを考えていたのだが、実際には読み書きに対するニーズが高い。入門者にとって、生活に必要な最低限の表現はフレーズとして場面に即した形で学ぶのが良いと考えていた。会話も識字も両方で苦労していることに間違いはないのだが、入門者にとって、日本語教室の中でさえ日本語で発話することに恥ずかしさや不安がある場合も見受けられる。その点、文字学習は取り組みやすいようだ。また、滞在年数の長い者の参加も多かった。この人たちは、日本語で会話をすることを楽しみに当教室に通っている。一方、文字を学ぶほうが「習得した」という満足度が高まる。実際の生活では子どもの学校で配布されたプリントが読めない、提出物を自力で書くことが出来ないなどの悩みを日ごろから抱えている。こうしたことから、文字についてレアリアを使いながら学ぶことを取り入れた。履歴書については「自力で書けなければならない」ので、各自ボランティアの協力を得ながらオリジナルのサンプルを作成した。自宅住所を漢字で書けない入門学習者も「書けた」という喜びから、文字学習、ひいては日本語学習への意欲があがったようだ。

※ アンケート結果は別紙のとおり。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

- ・ フィリピン人参加者(1度でも当教室を受講した者)が多かったこと。
- ・ 家族単位で参加した学習者が多かった。こうした人たちにとっては、限られた時間で、生活に即した内容の日本語を習得することができた。
- ・ 新たな日本人参加者の開拓ができた。(開期中、多くの日本人ボランティアが参加した)日本人ボランティアにとって、フィリピン人の特性や文化を知ることができたことで、相互理解が深まった。その結果、フィリピン人学習者である当事者と、日本人参加者とが協

働した形で日本語教室を運営することができた。

- ・ ゲスト招聘することによって、その分野特有の日本語表現や、日本語でできたほうが良いことを体得することができた。
- ・ バイリンガル講師を置くことで、学習者の生活実態から学習ニーズを捉えて授業を行うことが出来た。
- ・ この教室を通して、フィリピン人からの生活相談件数が増えた。このことはバイリンガル講師の向上心をさらに上げるとともに、同じふるさとの仲間に対して自助努力の重要性を呼びかけるきっかけになった。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

● 株式会社イズモデン様

タブーである喪について、日本人でさえその理解には地域差や個人差があり、外国人にとっても情報が見えにくい。葬祭の文化は地域性があるので、浜松特有の葬式のマナー、文化を学ぶことができた。また、「知人にご不幸があったとき、気持ちはあるのだけど、どのように慰めてよいかわからない」という不安から、「このたびは、ご愁傷様です」を言えるように勉強した。

● 浜松中央警察署

緊急時の110番通報と、相談の場合の連絡先は違うということが紹介された。フィリピン人からの警察への相談は、ドメスティックバイオレンスに関することも多い。緊急を要しない「相談」であれば、警察署の一般電話へかけてほしいということだった。

この教室では、実際のデモ電話を使いながら、警察署の方と臨場感あふれる通報のロールプレイを行った。警察署の方からは、「通報するのは不安だと思うけれども、電話がかかってきて日本語が通じなかったら、私たちも実は緊張します。まずは、落ち着いて。一人で話すことができなければ、無理をしないで近くの日本人に代わってもらったり、日本語の上手なお友達に通報してもらってください。それでも回りに誰もいなくて、通報せざるを得ない場合は、“通訳おねがいます”と、一言、言ってください。この、日本語を覚えておいてください」と、アドバイスしていただきました。

夏休みの開催ということもあり、子どもたちの参加も見受けられた。中学生の女子には、痴漢に遭遇したらという想定で、ロールプレイを行った。また、免許を持っている学習者には「万が一、誰かをひいてしまった場合」を想定して、練習を行った。人を轢いてしまったときこそ、パニックに陥りやすいのでよく練習したほうがよいという警察署からのアドバイスの下であった。

最後に、「かけこみ110番」の存在が紹介された。シールの貼ってある家は、何かあったら助けを求めて入ってもいいという家とのこと。参加者からは「でも、本当に入っても大丈夫ですか。知らない人の家なのに」という不安の声もあった。警察署の方から「シールの貼ってある家は、警察からお願いをしている家なので、大丈夫です。」と説明をいただいた。在住外国人が地域で孤立しないために、貴重な情報をいただいた。

● 長尾小児科医院

病院で、自分の症状を伝えることも難しいが、医師が説明してくれる診断を聞き取ることも在住外国人にとっては、難しい。この日のロールプレイでは、参加者が自由に医師とロールプレイを行った。そうしたところ、日本語だけではなく「持病」や「日ごろの不調」について、不安を抱えているものの、日本語が未熟なためにそのままにしている学習者が多いことがわかった。運営側で用意していたロールカードはほとんど使わず、具体的に「実はいつも心臓がドキドキしていて・・・」「子どもが“膝が痛い”と言っているんだけど・・・」「頭が痛い日が多い・・・」といったロールプレイを参加者は積極的に行った。医師のほうも、日本語を工夫したり(言い回しを簡単にしたり、ゆっくり話したり)、図や資料を見せながら、学習者にきちんと伝わるように回答いただいた。参加者には非常に好評だった。

● 浜松市保健所 健康増進課

病院の話とリンクすることができた。保健所では、VISA の更新をしていない母親や未婚の母、離婚してそのままの母という人が多く、健診チケットを交付することができないケースが見受けられる。「母子の健康のために必要なサービスだから、日本のルールを無視しないでVISA を更新してほしい」と、強いメッセージがあった。また、「ドメスティックバイオレンスを受けたら、必ず相談してください。その場合、傷の証拠写真を日付入りで残しておいて」などのアドバイスをいただいた。保健所の担当者が女性であったので、参加者たちも質問しやすく、「お姑さんと仲が悪いけど、どうしたらよいか」という質問もあがった。「大事なものは、一人で悩まないこと。私たちみたいな機関に相談してくれてもいいし、こうやって仲間同士で話すときスッキリすることもあります」とのことだった。また、保健所に電話をかける場合、私たちもゆっくり日本語を話すように気をつけます。でも、どうしても通じない場合は「通訳さんいますか」と日本語で言えるようにしておいてくださいと補足していただいた。

● 株式会社 杏林堂 (ドラッグストア)

病院や保健所の回とリンクすることができた。参加者は市販薬の箱に書かれている小さな漢字を読むことができない。そこで、薬剤師と話をしながら買うことを練習した。杏林堂のスタッフからは「痛い場所を手でおさえて、ジェスチャーをしながら、～がいたいですと言ってください」とのことだった。

また、杏林堂にはポイントカードシステムがある。この日の参加者の90パーセント以上が杏林堂ポイントカードを保有していた。しかし、この教室を通して重要なことがわかった。外国人にとって、杏林堂のポイントカードシステムが理解しにくかったということである。ご協力いただいた企業に対して、在住外国人の実情を送ることができた。

⑤ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

- ・ 情報提供、文字、会話と、取り上げたい項目が多い。
- ・ 学習者は継続した出席が難しい。
- ・ 参加人数に対して、バイリンガル講師の不足。
- ・ 日本語の勉強はしたいけれども教室へ通う交通費のことを懸念している学習者もいる。

b. 今後の課題

- ・ 日本語教室の中において、情報提供、文字、会話のバランスを考えていく。
- ・ 継続した出席をすることが難しい学習者に対して、コンパクトなカリキュラムの見直し。
- ・ バイリンガル講師の人材育成と、新規者の開拓。
- ・ 集住地区での教室開催(交通費の事情で、駅周辺の日本語教室へ通うことが困難な人たちへのフォローとして)
- ・ 日本人男性の配偶者としての滞在年数が長い主婦、日本語を使用する機会が少ない日系人家族、次世代としての子どもたちの来日、接客業をしている女性、生活背景が多様化している在住フィリピン人に対して、どこに焦点を当てて日本語教室のテーマを取り上げていくか。

c. 今後の活動予定, 展望

- ・ 家族で参加できる教室として浜松市委託「プロジェクトジュントス」と同時間の教室開催を行う。
- ・ 託児を設けることで、学習に安心して集中できるように考慮する。
- ・ 集住エリア開拓により、その地域の自治会、関係機関に対して地域共創の理解を深める。

⑥その他参考資料

※学習者が作成した新聞を別紙にて提出